

リスクコミュニケーション・ワークショップ 実施案

日時：2003 年 11 月 22 日（土）13 時～16 時

場所：テクノ交流館 リコッティ 1 階 多目的ホールおよび会議室

テーマ：原子力，食品，自然災害，廃棄物，化学物質

参加者：テーマに関わるリスク専門家（各 2 名程度），公募した一般市民（各 5～6 名予定）

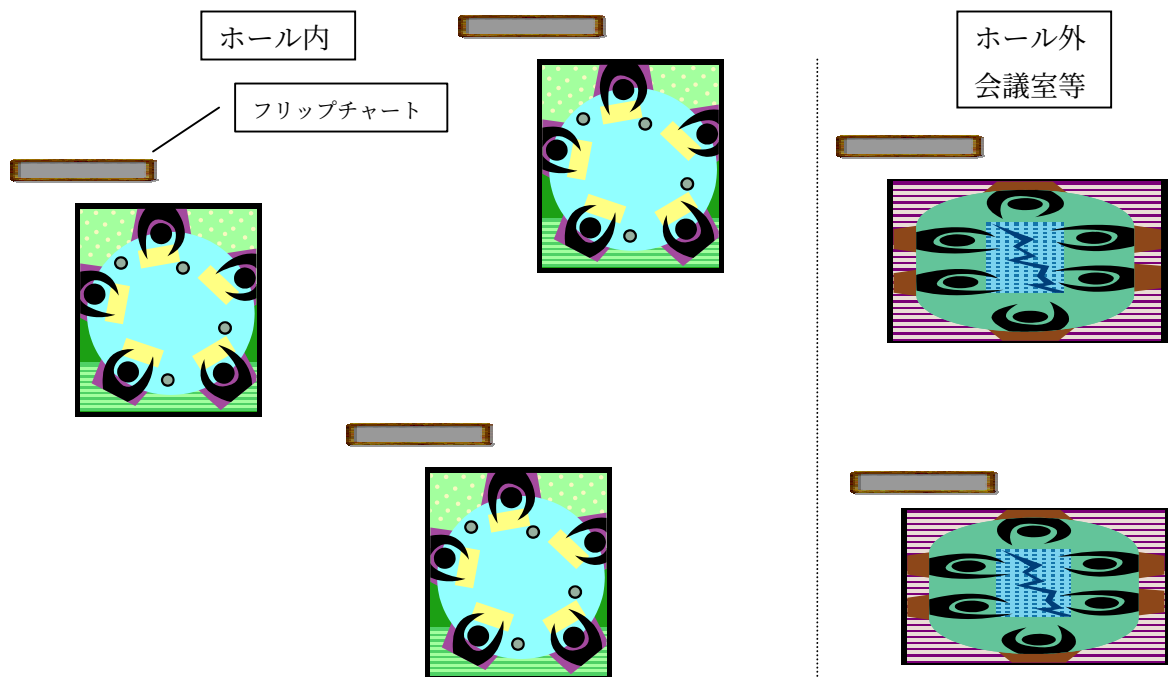
◎ ワークショップの目的

- ・ 各テーマのリスクについて，専門家は科学的知見などを伝え，一般市民は懸念や関心事を伝える（リスクコミュニケーションの実施）
- ・ 各専門家が一般市民に対する理解を深めるとともに，コミュニケーション力の重要性に気付く

◎ 準備

- ☐ フリップチャート用紙
- ☐ ホワイトボード，フリップチャート台
- ☐ ホワイトボードペン（黒・赤・青）
- ☐ マグネット
- ☐ ネームプレート（紙に自筆で氏名を書いたもので可）

会場の設営案



◎ 配布資料

- ・ 市民のためのリスクコミュニケーション・ガイド
- ・ 参加者へのアンケート

◎ 進め方

12：30～ 受付開始（参加テーマを割り振る：事前に参加者名簿を作成）

13：00～13：05 はじめの挨拶（谷口）

13：05～13：15 リスクコミュニケーションとは（木下先生）

13：15～13：20 進行方法・議論のルールについて（土屋）

＊ 進行は原則として各テーマで独自に考えてよい

＊ 7名以上のグループには別途ファシリテーターをつける（木下先生もしくは土屋）

＊ 各グループの会話はテープに記録する

13：20～13：45 自己紹介（名前・所属・各テーマのリスクについてどのような関心をもっているか）

＊ 専門家もしくはファシリテーターが市民の関心事をいくつかの話題にまとめる。

13：45～14：40 各話題について、専門家が説明した上で、自由な討議を行う

14：40～15：00 休憩

15：00～15：50 残りの話題について議論する

＊ もし話がすべて終わったら、別のグループに加わっても良い

15：50～16：00 総括（木下先生）と終了のあいさつ（谷口）

<11月11日時点での参加申し込み状況>

- ・ 東海村村民 3名 ← 環境に関心のあるNPOを中心にダイレクトメールで追加募集中
- ・ 学会参加者 42名（うち専門家側として8名）

専門家側としてご参加いただきたい先生方

テーマ：原子力-----村松 健（日本原子力研究所）、篠田佳彦（核燃料サイクル開発機構）

廃棄物-----盛岡 通（大阪大学）

自然災害---池田三郎（筑波大学）、照本清峰（防災科学技術研究所）

化学物質---大島輝夫（化学品安全管理研究所）、東海明宏（産業技術総合研究所）

食品-----関沢 純（徳島大学）、（奈良百合子（農水省：未定））

＊ パートナーとして専門家側に加わっていただきたい方がいらっしゃいましたら、土屋までお知らせください。

リスクコミュニケーション・ワークショップの進め方

日時：2003年11月22日（土）13時～16時

場所：テクノ交流館 リコッティ 1階 多目的ホールおよび会議室

テーマ：原子力，食品，自然災害，廃棄物，化学物質

参加者：テーマごとの参加者リストを参照ください。

◎ ワークショップの目的は、関心をもつ市民と専門家とのリスクコミュニケーションの実施です。

◎ 進め方

12：30～ 受付開始

13：00～13：05 はじめの挨拶（谷口）

13：05～13：15 リスクコミュニケーションとは（木下先生）

13：15～13：20 進行方法・議論のルールについて（土屋）

13：20～13：45 自己紹介をしましょう（名前・所属・各テーマのリスクについてどのような関心をもっているかについて話してください。）

13：45～14：40 専門家からの説明と議論をはじめます

＊ 専門家もしくはファシリテーターが参加者の関心事をいくつかの話題にまとめ、説明や議論をはじめます。

＊ 自分の考えや意見・疑問を伝えることと同時に、他の人の考えや意見・疑問にも耳を傾けましょう。

14：40～15：00 休憩

15：00～15：50 残りの話題について議論します

＊ もし話がすべて終わったら、別のグループに加わっても良い

15：50～16：00 総括（木下先生）と終了のあいさつ（谷口）

飲み物は休憩時間に限らず、ご自由にお飲みいただけます。

アンケートにご協力ください。

進行や説明上の注意

明るく気さくな雰囲気をつくってください。

一人一人の話をていねいに聞く姿勢を示しましょう。

自己紹介の時間は長引いてもかまいません。

自己紹介の中で示された参加者の関心をまとめたら、今日の主な論点について、参加者との間で合意をとってください。

説明をするときには、はっきりとした声で、できるだけ専門用語を使わずにお話ください。

参加者一人一人の顔を見ながら話されるとよいでしょう。

質問は最後までていねいに聞いてから答えてください。

質問や意見を途中でさえぎらないようにしましょう。

質問に答えるときには、相手とのアイコンタクトを大切にしましょう。

できるだけ、すべての参加者が発言できるように気を配ってください。

勝手に隣同士で話し始めた場合は、穏やかにこちらの話を聞いてもらうように声をかけてください。（最初が大切です。一度雑談を許すと収拾つかない状態になりかねません。）